

第 1 2 7 回 (令和 3 年 1 2 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 4 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は20分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

得意先名	商品名	定価	売上数
あさひや	C	1,350	170
丸和水産	A	1,230	230
中央商会	B	1,140	240
木村食品	D	1,090	310
三日月堂	B	1,140	290
豊田総業	C	1,350	180
ウエマツ	D	1,090	270
大山物産	A	1,230	260

<処理条件>

- <出力形式>のような売上一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 売価=定価-100
売上額=売価×売上数
試供品数=売上数×10%
- 合計・平均(整数未満四捨五入の表示)を求めなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式>

売 上 一 覧 表

得意先名	商品名	定価	売価	売上数	売上額	試供品数
合 計	——	——	——			
平 均	——	——	——			

第 1 2 7 回 (令和3年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 3 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

コード	社員名	実働時間	時給
101	小川 良子	135	1,120
102	佐山 英雄	160	1,030
103	南 さやか	145	1,070
104	久保田 進	124	1,090
105	土屋 加奈	154	1,130
106	青木 正樹	130	1,060
107	吉田 絵美	136	1,040
108	木村 真一	141	1,140
109	原 真由美	157	1,050

<乗率表>

実働時間	乗率
145 未満	4.8%
それ以外	5.7%

<処理条件>

- <出力形式1>のような社員別賃金一覧表を作成しなさい。（——の部分は空白とする）
- 基本賃金＝時給×実働時間
- 乗率は<乗率表>を参照し、求めなさい。（%の小数第1位までの表示とする）
特別手当＝基本賃金×乗率（整数未満切り上げ）
支給額＝基本賃金＋特別手当
- 支給額の降順に順位をつけなさい。
- 合計を求めなさい。
- 実働時間の昇順に並べ替えなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。すべて¥表示とする。（平均は整数未満四捨五入の表示とする）
- 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）

<出力形式1>

社 員 別 賃 金 一 覧 表

コード	社員名	実働時間	時給	基本賃金	乗率	特別手当	支給額	順位

(途 中 省 略)

——	合 計		——		——			——

<出力形式2>

	基本賃金	特別手当	支給額
平 均			
最 小			

第127回 (令和3年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準2級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

CO	会員名	商品番号	日数
101	杉山電機	24	12
102	マルミ食品	23	13
103	井上工業	21	14
104	すばるHD	22	11
105	加藤企画	21	8
106	久保田水産	24	9
107	大川商事	23	10
108	西日本総業	22	15

<基本料金テーブル>

商品番号	基本料金
21	52,300
22	49,800
23	51,400
24	48,200

<追加料金の計算式>

日数	追加料金
10以下	0
それ以外	基本料金÷10×(日数-10)

<割引率表>

日数	割引率
14以上	⇒ 8.6%
11以上 14未満	⇒ 6.4%
11未満	⇒ 4.2%

<処理条件>

- <出力形式1>のような貸出料金請求額一覧表を作成しなさい。(——の部分は空白とする)
- 基本料金は<基本料金テーブル>を表検索しなさい。
- 追加料金は<追加料金の計算式>を参照し、求めなさい。
補償料=(基本料金+追加料金)×3.6%(整数未満切り捨て)
貸出料金=基本料金+追加料金+補償料
- 割引率は<割引率表>を参照し、求めなさい。(％の小数第1位までの表示とする)
割引額=貸出料金×割引率(整数未満切り上げ)
請求額=貸出料金-割引額
- 合計を求めなさい。
- 日数の降順に並べ替えなさい。
- 貸出料金請求額一覧表の基本料金のセル証明をしなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。すべて¥表示とする。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 貸出料金請求額一覧表の請求額の値を会員名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“請求額の比較”とし、凡例は“請求額”とする。

<出力形式1>

貸出料金請求額一覧表

CO	会員名	商品番号	基本料金	日数	追加料金	補償料	貸出料金	割引率	割引額	請求額
(途中省略)										
——	合 計	——		——				——		

<出力形式2>

	貸出料金	割引額	請求額
平 均			
最 大			
最 小			

商C Oが 102 以外の請求額の合計	
売上数が 460 以下の値引額の平均	

第127回 (令和3年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 1級問題

＜問題＞

1. 下記の＜入力データ＞を基に、＜処理条件＞に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
2. 使用したテーブルを印刷しなさい。（表の形式は問わない）
3. データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
4. 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

得CO	商CO	売上数
11	101	511
11	102	780
11	103	712
11	104	700
12	101	800
12	102	825
12	103	494
12	104	551
13	101	467
13	102	612
13	103	794
13	104	701
14	101	669
14	102	667
14	103	380
14	104	569

＜得意先テーブル＞

得点	得意先名	ランク
11	ヤスイ商店	X
12	北野販売	Y
13	中日本事務	Y
14	東海文具	X

＜商品テーブル＞

商C O	商品	定価
101	A	980
102	B	1,210
103	C	1,060
104	D	890

＜値引率テーブル＞

ランク	値引率
X	6.2%
Y	3.9%

＜評価表＞

売上数	請求額	評価
700 以下 かつ 700,000 以上		***
700 以下 かつ 400,000 以上 700,000 未満		**
それ以外		*

<処理条件>

1. <出力形式1>のような請求額一覧表を作成しなさい。（——の部分は空白とする）
2. 得意先名・ランクは<得意先テーブル>を表検索しなさい。
3. 商品名は<商品テーブル>の商品を表検索し、“商品”の文字を関数または演算子を使用して結合しなさい。
(例 A商品)
4. 売価＝定価×0.96（整数未満切り上げ） ※定価は<商品テーブル>を参照する。
売上額＝売価×売上数
値引額＝売上額×値引率（100位未満切り捨て） ※値引率は<値引率テーブル>を参照する。
請求額＝売上額－値引額
5. 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
6. 合計を求めなさい。
7. <出力形式1>と同じ形式で、売上数が700以下で値引額が30,000以上を抽出しなさい。
表題は“請求額一覧表（売上数700以下・値引額3万円以上）”とし、得COの昇順で請求額の降順に並べ替えなさい。
8. 請求額一覧表を基に<出力形式2>のような処理をしなさい。
9. 請求額一覧表を基に<出力形式3>のような処理をしなさい。（平均は整数未満四捨五入の表示とする）
10. 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）
11. <出力形式2>の売上額を商品名別の横棒グラフにしなさい。
タイトルは“売上額の比較”とし、凡例は“売上額”とする。

<出力形式 1>

請 求 額 一 覧 表										
得ＣＯ	得意先名	ランク	商ＣＯ	商品名	売価	売上数	売上額	値引額	請求額	評価
(途 中 省 略)										
――	合 計	――	――	――	――					――

<出力形式 2>

商品名	売上数	売上額	請求額
A 商品			
B 商品			
C 商品			
D 商品			

<出力形式 3>

ランクが X で売上額が 60 万円以上の値引額の合計	
売上数が 800 より少ない請求額の平均	
北野販売以外で請求額が 50 万円以上の件数	

第127回（令和3年12月）
情報処理技能検定試験（表計算）
初段 問題

試験時間	30分
------	-----

1. <入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成しなさい。
2. 表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
3. <出力形式>に「合計」「平均」などがある場合は、関数により処理を行うこと。ただし「——」部分は空白とする。
4. 表には罫線を引くこと。（罫線の太線と細線は区別する。外枠は太線とする。）
5. 使用したテーブルの表の形式は問わない。
6. [] 内文字はシート名とする。テーブルや作成する表にシート名があるものは、それぞれこのシート名でシートを作成し、処理を行うこと。

（例 <出力形式1> [前期]・[中期]・[後期]→前期、中期、後期の各シートを作成し、それぞれ指示された表を作成する。）
7. 作成したデータは事前に準備したファイル（初段・受験番号・名前）に上書き保存する。

（例：初段101日検太郎）

問 題

＜入力データ＞※テキストデータはSPS フォルダー内のデータを使用する。

〔製品E〕（26件）

作業日	社CO	作業数
2021/11/1	101C	352
2021/11/2	101C	300
2021/11/4	101C	310
2021/11/4	104C	315
2021/11/5	104C	316

〔製品F〕（26件）

作業日	社CO	作業数
2021/11/1	102B	299
2021/11/2	102B	305
2021/11/4	102B	311
2021/11/5	101C	364
2021/11/8	103A	457

〔製品G〕（26件）

作業日	社CO	作業数
2021/11/1	103A	413
2021/11/1	104C	227
2021/11/2	103A	438
2021/11/2	104C	218
2021/11/4	103A	438

〔納品データ表〕（15件）

納CO	製CO	納品数
11	1001	1,626
11	1002	1,996
11	1003	1,498
12	1001	1,720
12	1002	1,849

2021/11/24	104C	344
2021/11/25	101C	364
2021/11/26	101C	326
2021/11/29	101C	348
2021/11/30	101C	337

2021/11/24	101C	408
2021/11/25	102B	331
2021/11/26	102B	340
2021/11/29	103A	500
2021/11/30	102B	300

2021/11/27	104C	209
2021/11/29	104C	217
2021/11/29	104C	262
2021/11/30	103A	320
2021/11/30	104C	167

14	1002	1,796
14	1003	1,640
15	1001	1,650
15	1002	1,850
15	1003	1,806

＜出来高単価テーブル＞〔テーブル〕

区分	製品名		
	製品E	製品F	製品G
A	35.3	40.6	35.7
B	36.7	42.2	37.1
C	38.0	43.8	38.5

＜製品テーブル＞〔テーブル〕

製CO	製品名	製品単価
1001	製品E	159
1002	製品F	172
1003	製品G	148

＜値引率表＞〔テーブル〕

納品数		値引率
1,850 以上		7.9%
1,650 以上	1,850 未満	6.7%
1 以上	1,650 未満	5.8%

※区分は社COの右から1文字目。

＜納品先テーブル＞〔テーブル〕

納CO	納品先名
11	東海金属
12	田中電機
13	中央製作
14	S P精密
15	マルヤマ

＜社員テーブル＞〔テーブル〕

社CO	社員名
101C	青木 勝人
102B	伊藤 愛子
103A	長谷川 誠
104C	星 あかり

＜処理条件＞

- ＜入力データ＞（テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式）、＜出来高単価テーブル＞を使用し、＜出力形式1＞のような表をそれぞれのシートに作成。

＜出力形式1＞〔製品E〕・〔製品F〕・〔製品G〕

作業日	社CO	作業数	出来高給

（途中省略）

- 出来高給＝出来高単価×作業数（整数未満切り上げ）

- ＜入力データ＞（テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式）、＜製品テーブル＞、＜値引率表＞を使用し、＜出力形式2＞のような表を作成。

＜出力形式2＞〔納品データ表〕

納CO	製CO	製品名	納品数	製品価格	製品代金

（途中省略）

- 製品名は＜製品テーブル＞を表検索。
- 製品価格＝製品単価×（1－値引率）（整数未満切り捨て）
- 製品代金＝製品価格×納品数

3. <出力形式2>、<納品先テーブル>を基に、<出力形式3>のような表を作成。

<出力形式3> [計算表]

納品先別請求額計算表					
納CO	納品先名	納品数	製品代金	諸経費	請求額
(途中省略)					
—	合 計				

- 1) 納品先名は<納品先テーブル>を表検索。
- 2) 納品数・製品代金は、基表の同項目の値を集計。
- 3) 諸経費は、製品代金が79万未満の場合、製品代金×5%、それ以外は、製品代金×6%。(10位未満切り捨て)
- 4) 請求額=製品代金+諸経費
- 5) 納品数の昇順に並べ替え。

4. <出力形式1>、<社員テーブル>を基に、<出力形式4>のような表を作成。

<出力形式4> [計算表]

社員別支給額計算表							
社CO	社員名	出来高給			勤勉手当	積立金	支給額
		製品E	製品F	製品G			
(途中省略)							
—	合 計						

- 1) 社員名は<社員テーブル>を表検索。
- 2) 各出来高給は基表の同項目の値を集計。
- 3) 勤勉手当=全製品の出来高給の合計×8.6%(10位未満切り捨て)
- 4) 積立金は全製品の出来高給の合計と勤勉手当の合算を1,000で割った余り。
- 5) 支給額=全製品の出来高給の合計+勤勉手当-積立金
- 6) 支給額の降順に並べ替え。

5. <出力形式3>を基にグラフを[計算表]シートに作成。

- 1) グラフの種類は、納品先名別の納品数を折れ線、請求額を縦棒にした複合グラフ。
- 2) グラフタイトル、凡例は以下のとおりにする。

